



日本成長戦略会議 AI・半導体WG 第一回 ～AI分野における個別論点補足資料～

2026年2月12日

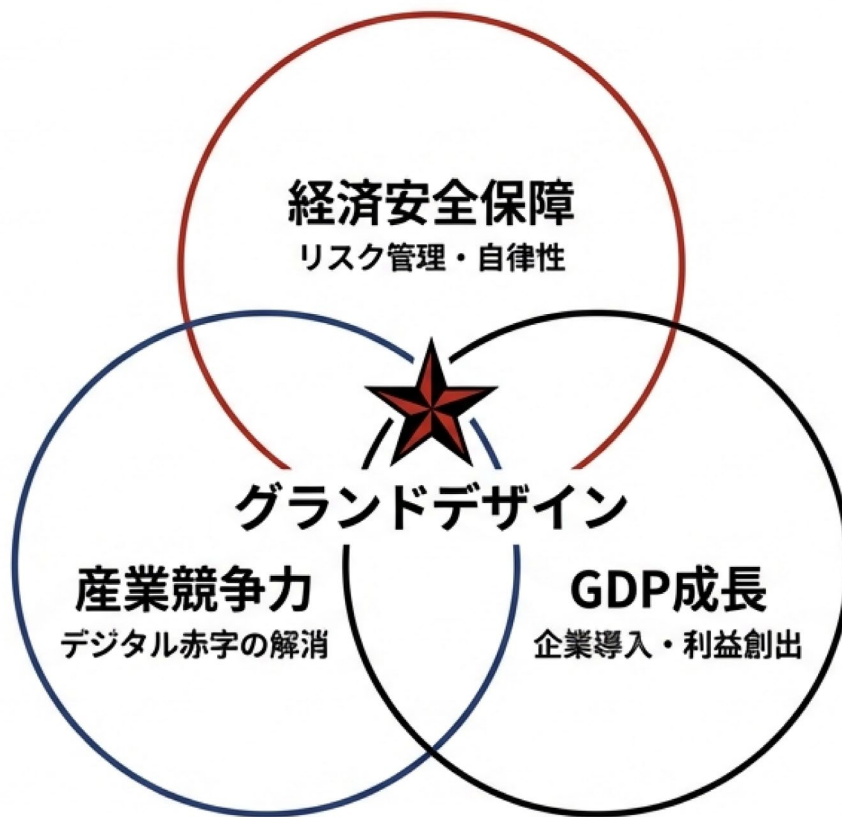
株式会社ABEJA

代表取締役CEO 岡田 陽介

AI・半導体全体戦略の骨子

- 前提として、人口減少局面にある日本において、AIは神風に近い画期的イノベーションであり、社会に浸透させることが国の未来を左右する。
- また、日本は勝てる見込みが無いという考えが多いことも理解するが、明確に勝ち筋はあると確信している。
- 一方で、過去からの経緯も含めて「何もしなければ、デジタル小作人として衰退することが確定している」ことも事実であり、最善の一手を常に打ち続けることが重要。

3点についてバランスを持った戦略に仕立て上げることが重要



— 言語をベースとするAI研究開発競争

- 言語をベースとするAIの競争においては、世界的な巨大資本による競争が激化しており、短期的な「勝ち」を見出すことは難しい。
- AIそのもののイノベーション速度はあまりにも早く、短期サイクルで遺物になることは明確。
- 短期的な「勝ち」にこだわるのではなく、グローバルの先頭集団から脱落することなく最新の技術潮流に追随できるポジションを維持することが重要。
- 今後、勝機を見計らって、常に一気に攻勢をかけられる状況を常に模索。

独特のポジションを狙うことが重要
短期的、感情的に戦いを挑むことは避ける

正面からの真向勝負ではなく
「負けない」ポジションを
キープしながら、
勝機を見計らって攻勢をかける
準備をする

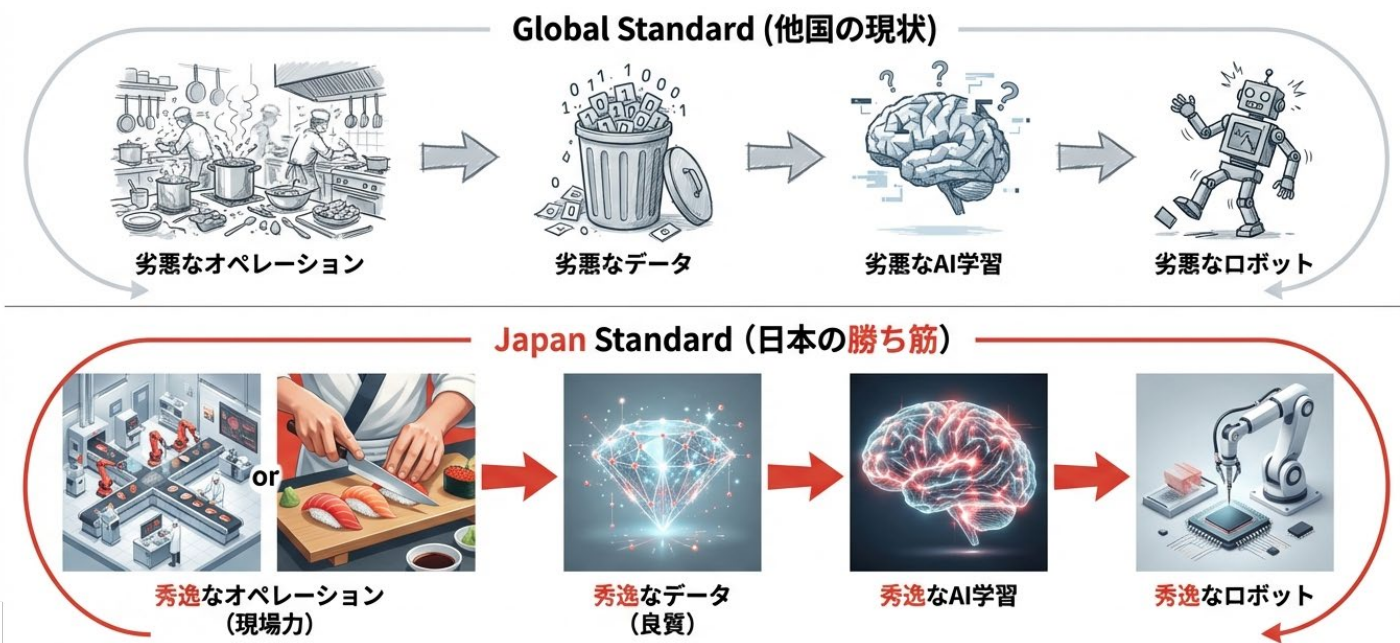


Physical AI における日本の競争優位性

- Physical AIの領域においても、高品質データは非常に重要。
- 学習データ品質が、最終的なロボットパフォーマンスを直接的に決定する。
- 諸外国では、オペレーション品質が劣悪であり、これらを学習データとした場合、ロボットを動かすAIが劣悪になり、劣悪なオペレーションを再現することになる。
- 日本は、製造業、物流、小売、一次産業において世界最高水準のオペレーション品質を有しており、このデータを活用したPhysical AI研究開発が長期的な優位性につながる。

高品質データが重要

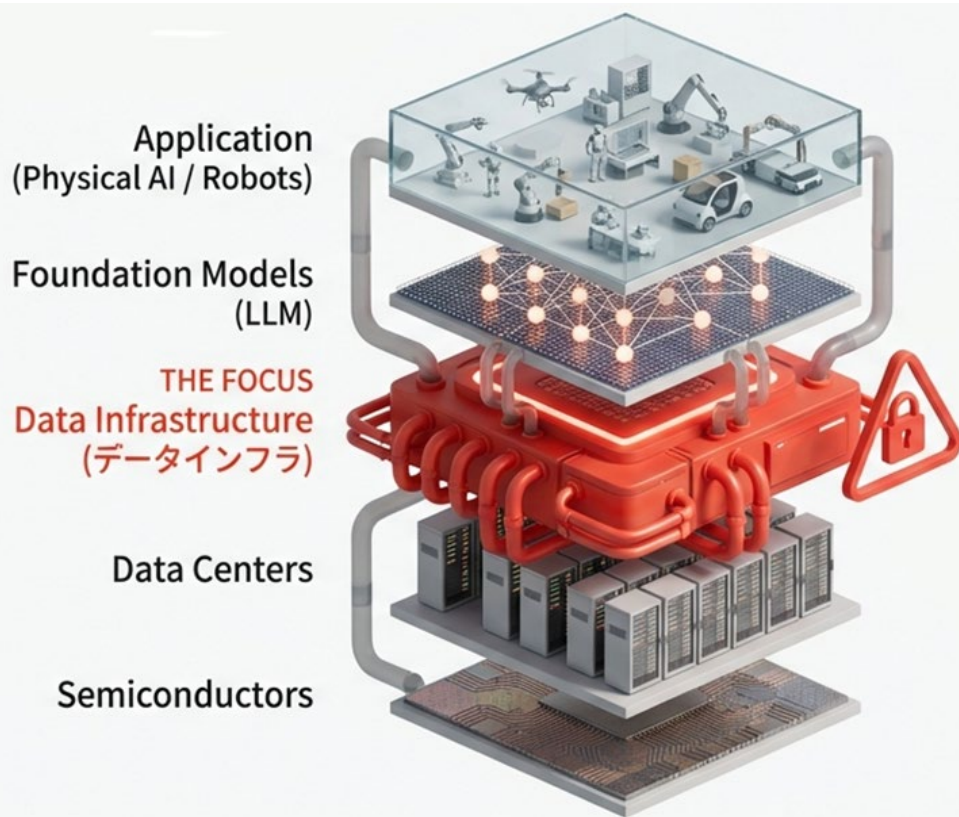
データの品質が最終的なロボットオペレーションのパフォーマンスに直接影響する



「データインフラ」の重要性

- 高品質なデータをAIに連携するためのパイプライン（インフラ）が不可欠。
- 現在、オペレーションデータは“捨ててしまっている”状況。
- これをプロトコル化し、データインフラに流し込むことが必要。
- データインフラを海外企業に依存することは、経済安全保障上も大きなリスク。
- 一方で、国内において強みを持つ企業は少ないため、国内企業を育てる必要がある。
- なぜ必要なのか？を説明することが難しい特性があるため、積極的に必要性を発信する必要がある。

「データインフラ」がない限り、データを取得すらできない、
また計算リソースがあったとしても、学習できない



AI導入による各企業の利益向上と GDPへのインパクト

- 各企業にはAIの導入をして頂き、利益を大きくすることで、最終的にGDPを増加させるという全体感を持った骨子を作っていくことが重要。
- 企業としては、売上の増加、または、コスト削減をしなければ、利益に繋がらない。
- AI利活用の観点を中期経営計画に反映して頂くなど、攻めと守りの両面からAIでしっかりと利益を生み出すことに注力することを後押し。
- GDPへのポジティブな影響を生み出し、よりAI導入が加速化するというサイクルが日本経済の成長ループを回していく。

AI導入を起点に、日本経済の成長ループを回す

